

野田 三郎 について



● 信念

教育は環境。この経済の不如意の時に環境を整備することは困難であるが、環境を整備しなければ教育はできない

● 人柄

寡欲と寡黙、不言実行。人には厚く自分に薄く、人・ものを大切にし、責任を重んじ、約束の時間を必ず守る。未来展望をもって事にあたる熟慮断行の人。

● 功績

◇ 浪商学園の礎を築く

大正10年の創立から12年後の昭和9年、国次町校舎が不審火による失火で全焼。昭和10年、運営困難となった浪華商業学校（現大阪体育大学浪商高等学校）の創立者代表兼校長に就任し、昭和13年には大阪市東淀川区国次町（現淡路町）に新校舎を再建しました。しかし、昭和20年、大阪大空襲により校舎は全焼し、再び国次町に落ち着くまで3度の移転を余儀なくされました。昭和24年、浪商幼稚園を発足、昭和31年、中学・高校の新校舎建設などに尽力しました。昭和38年、さらに充実した教育環境を整えるため、校舎を茨木市へ移転しました。常に社会の動向を見極めつつ、時代を先取りする実業教育を積極的に取り入れるなど、社会に貢献できる人材を育成するための環境を整えました。

◇ スポーツ教育に力を入れ、青少年の心身の育成に尽力

野球を中心としたスポーツ教育を積極的に奨励し、浪商高校野球部に対しては特に注力しました。就任2年後の昭和12年、浪商高校は春の選抜大会で全国優勝、また、昭和21年夏の全国大会でも優勝し、大阪で初の春夏優勝校となりました。その後も浪商高校は春夏通算32回甲子園に出場し、全国優勝に4度輝きました。

◇ 念願であった体育大学を設立

設立にあたっては、昭和3年アムステルダム五輪棒高跳で6位入賞し当時の岸和田市長でもあった中澤米太郎氏や、体育・スポーツに専門的見識を持ち、昭和39年東京五輪強化委員長・選手団長も務められた大島鎌吉氏、日本体育学会創立メンバーで日本スポーツ科学の基礎を築かれ、当時東京大学教授だった加藤橘夫氏など、著名な有識者に相談し、昭和40年、大阪体育大学を設置し、同学長に就任、今日に至る学園発展の基礎を固めました。

◇ 大阪府の私学教育振興に貢献

産業教育や実業教育、そして定時制通信教育振興のため、大阪私学経営者協議会の会長として先頭に立って活躍し、大阪府の私学教育発展に大きく貢献しました。その功績が認められ、昭和41年には「勲四等旭日小褒章」を受賞しました。

【年譜】

西暦年（和暦年）	関連事項
1890（明治23）年	佐賀県佐賀郡大和田町で生まれる
1912（明治45）年	長崎高等商業学校（現・長崎大学）卒業 浪商学園初代理事長 徳永四郎とは高校の同級生
1920（大正9）年	株式会社住友倉庫大阪本社 勤務
1921（大正10）年	浪華商業実修学校認可に協力
1924（大正13）年	甲種商業学校として浪華商業学校認可 石西豊蔵、徳永四郎、西池成輝とともに設立者として名を連ねる 初代校長は徳永四郎が就任
1932（昭和7）年	株式会社大阪倉庫 支配人に就任
1935（昭和10）年	浪華商業学校創立者代表兼校長に就任
1950（昭和25）年	浪商附属幼稚園設立認可、園長に就任 大阪府公私立商業高等学校連盟会長に就任
1955（昭和30）年	大阪府私学総連合体育委員長に就任
1956（昭和31）年	大阪府私立中学校高等学校連合会副会長に就任
1960（昭和35）年	関西商業教育研究会（近畿、中国、三重県の公私立商業高等学校の研究会）会長に就任
1963（昭和38）年	全国商業高等学校長協議会常務理事に就任
1965（昭和40）年	大阪体育大学設置認可、学長に就任
1966（昭和41）年	大阪私学経営者協議会会長に就任
1968（昭和43）年	茨木スイミングスクール設立、同代表に就任
1972（昭和47）年	大阪産業教育振興協議会会長に就任
1974（昭和49）年	大阪体育大学生産体力開発センター設立、同代表に就任
1975（昭和50）年	8月17日 逝去 行年85歳

【受賞歴】

西暦年（和暦年）	関連事項
1952（昭和27）年	私立学校経営功労賞を大阪府知事より受賞
1959（昭和34）年	私立学校教育振興の功労者として大阪府知事より受賞
1960（昭和35）年	藍綬褒章 受章
1965（昭和40）年	教育功労者として大阪府知事より受賞
1966（昭和41）年	勲四等旭日小褒章 受章